

# 第1回 金沢自転車ネットワーク協議会 議事概要

日時：平成23年2月23日（水）10：00～11：30

場所：国土交通省金沢河川国道事務所 2階会議室

1. 開 会
2. 規約（案）について
3. 会長選任・挨拶
4. 議 事
  - （1）自転車関連施策とネットワーク形成の課題（資料-1）
  - （2）今後のスケジュール（資料-2）
  - （3）その他
5. 閉 会

## 議 事 要 旨

◎協議会を継続的に実施し、各機関の施策の全体的な調整や、これから実施される取り組みの進捗管理を行うことが重要である。今後、10年、15年と継続していけば、欧州のような素晴らしい自転車ネットワークを構築することができる。

◎今後、協議会を継続していくにあたり、以下の点に留意すること。

- ①これまでの各種施策や自転車通行空間を明示する路面標示等の考え方を統一していくこと。
- ②ネットワークの連続性を確保すること（交差点部の処理等を含む）。
- ③国・県・市・警察および市民等の連携によりネットワークを形成すること（合意形成等）。
- ④利用者（市民、来街者、高校生等）への周知を十分に図ること（ルール・マナー含む）。
- ⑤みちづくりの将来の見通しを視野に入れて検討すること（今後の道路構造のあり方等）。
- ⑥地域のニーズを踏まえつつ、「重要なところ」を見極めながら予算を効果的に使うこと。

◎次年度以降の協議会は、「①年度当初」「②年度中間」「③年度末」において協議会を開催し、情報の共有化や課題への対応策の検討などを行う。協議会の開催時期は目安であり、必要に応じて、協議会や勉強会、現地視察等の活動を行うこととする。

## 委員名簿

分類	所属・氏名	出欠
学識者	金沢大学 教授 高山 純一	出席
	北陸大学 教授 三国 千秋	出席
	地球の友・金沢 三国 成子 (内閣府 第9次中央交通安全対策会議専門委員)	出席
警察	石川県警察本部 交通規制課長 藪上 利悦	出席
	石川県警察本部 交通企画課長 山口 良一	出席
	金沢東警察署 交通官 和田森 義則	出席
	金沢中警察署 交通官 武渕 純夫	出席
	金沢西警察署 交通第一課長 蔵谷 町村	出席
行政 関係	国土交通省金沢河川国道事務所 交通対策課長 天坂 豊治	出席
	石川県 土木部 道路整備課長 山岸 勇	代理出席 (東 課参事)
	石川県 土木部 都市計画課長 竹村 裕樹	代理出席 (為重課参事)
	石川県 県央土木総合事務所 維持管理課長 竹内 徹	出席
	金沢市 都市政策局 歩ける環境推進課長 清水 啓紀	出席
	金沢市 都市整備局 道路管理課長 今越 寛	出席

出席者：14名、欠席者：0名

### ■開会挨拶

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 吉田課長

定刻となりましたので、ただいまより、第1回金沢自転車ネットワーク協議会を開催いたします。本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、事務局を担当しております、国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課長の吉田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

### ■規約（案）について

●事務局より金沢自転車ネットワーク協議会 規約（案）について説明

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 吉田課長

ご意見がないようなので、皆様の拍手をもってご承認とさせていただきたいと思います。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

○一同拍手 ⇒ 規約承認

### ■会長選任・挨拶

●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 吉田課長

それでは次に、会長を選任させていただきたいと思います。規約の第5条により、会長は委員の互選により決定することとなっております。事務局としましては、専門的・客観的・継続的な視点で今後の面的な自転車ネットワークの構築を図っていきたいと考え、金沢大学教授の高山委員にお願いしたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか？

○一同拍手 ⇒ 承認

○金沢大学 教授 高山会長

会長に就任しました高山です。よろしくお願いいたします。国土交通省が、約10年前から自転車走行環境の整備を進めており、平成20年1月には98箇所モデル地区を選定し、事業を支援して進めています。石川県では、東金沢駅周辺の小坂地区がモデル地区に選定され、県が中心となり自転車レーンを整備しました。この事例で画期的だと思うことは、県が自転車レーンを整備するだけでなく、金沢市も連携をして、自転車レーンに並行する市道において自転車走行指導帯を整備することが決まったことです。自転車通行環境の整備や道路の整備において一番大事なことは、別々の道路管理者が個々で整備するのではなく、連携して一体的に整備することだと思います。今回開催する金沢自転車ネットワーク協議会は、関係機関が連携し、全体の中で必要な箇所から順次整備を進めていくための方針を決める組織だと思います。金沢市では、まちなか自転車利用環境向上計画の策定を進めています。計画では、国・県・市などのそれぞれの役割が書かれていますが、実際に計画を実行する上で、ちぐはぐなことが出てくるのが予想されます。そのようなことがないように、この協議会で、しっかり管理をして進める必要があると思います。協議会は、学識者、行政、警察で構成されていますが、それぞれの道路管理者が整備を進める際には、地元町会や地元商店街等とも協議し、整備していくことが大事だと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

## ■自転車関連施策とネットワーク形成の課題

### ●事務局より資料－1を説明

#### ○金沢大学 教授 高山会長

事務局から、国土交通省、石川県、金沢市がそれぞれどのような自転車関連施策を行ってきたのか、ネットワークを形成する上での基本的な方針について発表していただきました。

何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

#### ○北陸大学 教授 三国委員

今回が初回なので、根本的なことについて意見を出させていただき、みなさんにご意見を伺いたいと思います。まず、自転車ネットワークについて最近よく言われるようになりました。静岡や富山、宇都宮などの基本計画にも書かれていますが、ネットワークとは何か確認されていないように思います。自転車ネットワークをイメージするための一つの事例として、ドイツのフライブルクについて紹介したいと思います。フライブルクは、15年かけて市内中心部に自転車のネットワークを整備し、駐輪場も整備しています。具体的なイメージとして、どのようにネットワークを繋いでいくか確認しておくべきだと思います。また、宇都宮についてですが、自転車レーンに矢印や自転車マークなどが一切なかったことに驚きました。自転車レーンや自歩道の起点部に路面標示などが示されているだけでした。市民の人は、自転車レーンがどこにあるかわからないと答えていました。市民にうまくPRできていないのではないかと思います。自転車の話をする際、まずターゲットの話があると思います。宇都宮の場合は、プロ自転車チームだと思われます。市民をターゲットにしていないため、うまく自転車レーンなどについて周知ができていないのではないかと思います。二つ目として、高校生の話があると思います。宇都宮では、朝の通学時に1列で左側通行、赤信号で停止することが徹底されており、自転車に関する教育が充実しているのではないかと思います。三つ目として、市民の話があると思います。市民が自転車でまちなかを移動しやすく、使いやすいくことで、クルマの利用者が自転車に少しでも転換し、渋滞や事故が減り、賑わいも創出されるのではないかと思います。基本的に、市民の足としての自転車の利用を考えていく必要があると思います。

### ●事務局

ご意見の通りだと思います。整備を進める上で、その他にも枝葉の部分が出てくると思います。その枝葉の部分はこの協議会で情報を共有化し、対応を検討していければいいと思います。

#### ○地球の友・金沢 三国（成）委員

今まで、自転車に関する多くの取り組みを見て、その地域で国、県、市、警察がどのような関係なのか、道を見てわかるようになりました。新潟では、年度により整備方法が変わっていました。宇都宮では、県道の交差点中心部に赤くて四角い路面標示がありました。事故の多い箇所を設置しているとのことでしたが、通行している人に聞いてみると、市民の人は誰も何かわかっていませんでした。狭い道路の端に、自転車と歩行者が通行する空間を緑色で明示されており、中心に広くクルマが通行する空間が設けられていました。宇都宮は自転車の町と謳っていますが、考え方はクルマが中心なのだと思います。岡山では警察が頑張っていると思いました。連携していると、すべてが統一されています。静岡では、警察も連携

しているのも、統一されていると思います。市民に共通意識を伝えること、外から来た人が見ても統一されていてわかりやすいことが大事だと思います。

金沢市の中心部では、スーパーマーケットが減っています。中央小学校付近の住民は、離れた場所まで買い物に行くために自転車が生活の交通手段として大事になります。荷物があることを考えると、徒歩よりも自転車が便利で、生活に必要な交通手段だと思います。また、小学生の通学路が安全ではないことが、道の点検簿でわかりました。警察沙汰にならない自転車と歩行者の事故もあると聞きます。自転車ネットワークを検討する際には、通学路の安全確保も含めて検討していただきたいと思います。

○石川県 土木部 都市計画課参事 為重委員

最近では、国からの補助金など事業費活用の自由度が高く、提案が良ければ、ハード整備なども含め、ほとんどの事業が実施可能となっています。社会実験も積極的に実施してほしいと言われています。

○北陸大学 教授 三国委員

今回、ネットワークについて協議していますが、極論を言うと、駐輪場も含めたインフラをどのように整備するかということと、交通安全対策の2つが目的だと思います。第9次交通安全基本計画では、年間の交通死亡者数を3,000人以下とする目標を掲げており、交通事故を減らすことを共通認識として、交通事故対策や交通安全教育を警察だけに任せるのではなく、道路管理者や企業、学校、市民も責任を持って連携し、目標を達成することが大事だと思います。

○石川県警察本部 交通企画課長 山口委員

近年、自転車関連の交通死亡事故が非常に増えています。その中でも高齢者が多くの割合を占めており、高齢者は買い物や出かける際に自転車を多く利用している実態が関連しているのではないかと思います。自転車対策は大きなウエイトを占めていると思います。地元の要望を踏まえ、改善できるところを改善していきたいと思います。また、高校生への周知は、警察や行政だけで徹底することは難しいです。公安委員会や教育委員会との協議でも高校生の自転車マナーが話題に上がります。高校生がルールを守るような施策が必要で、教育委員会などとも連携し、指導することが効果的ではないかと思います。

○地球の友・金沢 三国（成）委員

第9次交通安全基本計画を受けて、警察や県、市などでは方針を決めているのでしょうか。宇都宮市では、交通安全基本計画が策定されています。

○石川県警察本部 交通企画課長 山口委員

平成23年度の国の方針決定を受けて、警察も参画して県が方針を決めることとなります。

○石川県 土木部 道路整備課参事 東委員

協議会では、金沢市が策定する計画の「まちなか自転車ネットワーク整備検討フロー」をもとに整備内容を検討していくことになると思いますが、路面標示の方法や交差点部の処理方法など細かい部分については決まっていないので、この協議会で議論できればいいと思います。また、東山の自転車走行指導帯では側溝の上も自転車走行空間に含まれていますが、自転車利用者は側溝の上を走行せず、実際は着色された部分の上だけを走行しています。側溝や縁石の段差処理など、道路構造のディテールについても議論できればいいと思います。

○北陸大学 教授 三国委員

ドイツのノルトライン＝ヴェストファーレン州の交通基本計画に、交通規則とその運用について明記されています。交通規則では対応できない部分について、運用の範囲でできることの例をいくつか上げています。運用の範囲については地域の了解を得なければなりません、先進的な取り組みだと思えます。金沢市のバスレーン内に設置した自転車走行指導帯も法定外で、全国で初めての試みですが、社会実験を行ってから運用しています。法律で決まっていない部分を、互いに知恵を出し合い、工夫して新しい事例を作って、警察や国交省に提案することで、受け入れられることや法律で認められることもあるかもしれません。実務担当者レベルの協議で、できることやできないこと、予算面の工夫などについても、知恵を出し合っていければいいと思います。

○金沢市 都市政策局 歩ける環境推進課長 清水委員

金沢市では「金沢市まちなか自転車利用環境向上計画」を策定し、来年度より、歩道の切り下げ部の改善や自転車走行空間の明示など、具体的な取り組みを行っていきたくと考えていますので、細かな部分についても統一的な考え方で行いたいと思います。ハード面だけでなく、ソフト面についても高校生のマナーなど様々な問題があり、できれば高校には交通安全教育の時間を割いていただき、自転車の通行方法などルールを勉強する機会が必要だと思えます。何校かモデル校を選定し、自転車ルール・マナー検定などを具体的に組み込んでいきたくと思います。一般の人についても、自転車は軽車両という認識の不足から、様々な問題が起きているのではないかと思います。また、ドライバーの自転車に対する認識も曖昧な部分があり、そのような部分を意識した啓発方法などについては、まもる部会をベースとした組織をつくって継続的に検討・実践していきたくと思いますので、ご協力をお願いします。

○金沢市 都市整備局 道路管理課長 今越委員

金沢市のまちなかでは、裏道など細街路の自転車交通量が多く、細街路についても今後自転車の通行方法などを整理していく必要があると思います。よく事故が起きる危険な交差点については、重点的に県警と連携して、来年度も整備を行っていきたくと思います。

## ■今後のスケジュール

●事務局より資料－2を説明

○金沢大学 教授 高山会長

勉強会の案内と、来年度の協議会の開催時期についてご報告がありました。何かご意見、ご質問などございませんでしょうか。

○北陸大学 教授 三国委員

勉強会の大切さを改めて強調したいと思います。この協議会は年に3回開催予定ですが、時には、より深い議論や、現場に即した様々な問題点等を、意見の違いや立場の違いを超えて話し合うことが重要だと思います。最初からベストな考えはありません。ドイツでは、このような協議会の下部組織として研究チームが設けられています。この研究チームが、現場視察や高校訪問などを行い、知識や経験を積み重ねて、一つの財産としています。勉強会は、年に1回程度継続的に開催していただき、関係者の方には各部署から発表者を出していただきたいと思えます。

○金沢大学 教授 高山会長

第2回、第3回の勉強会や現地視察なども含めて、事務局に企画していただければと思います。協議会や勉強会は、確実に継続していくことが大事だと思います。自転車歩行者安全マップから始まり、本日、自転車ネットワーク協議会が立ち上がりました。この協議会は、各道路管理者等の施策を全体的に俯瞰して調整を図るとともに、自転車ネットワーク整備の進捗を管理する上で貴重な協議会だと思っています。今後、5年、10年と継続していけば、三国先生からご紹介いただいたドイツのフライブルクの事例のような素晴らしい自転車ネットワークが形成できると思います。

○北陸大学 教授 三国委員

このまま継続していけば、間違いなく全国でトップになれると思います。

○金沢大学 教授 高山会長

本日、貴重なご意見をたくさんいただきました。まず、これまでの各種施策をはじめ、自転車走行空間の種類や路面標示方法等の考え方を統一していくことが大事だと思います。もう一つは、ネットワークの連続性を意識して整備していくことが大事だと思います。そのためには、国、県、市、警察、住民等が連携し、ネットワークを形成していくことが大事で、ハード整備が可能な箇所、交通規制やルール作りで対応すべき箇所などの仕分けを行い、地元住民の合意形成もしっかり行うことが大事だと思います。一番大事なことは、それらのことを住民や外から来た人に周知徹底することであり、日本語としてあまり好きではありませんがいわゆる“見える化”（一目でわかりやすく伝える工夫）も重要だと思います。以上の点を踏まえ、この協議会で少しずつでも着実に進めていただきたいと思います。また、地域のニーズを踏まえつつ、重要なところを見極めながら予算を効果的に使うことも大事だと思います。

○地球の友・金沢 三国（成）委員

今後の議論においては、将来的な見通しを視野に入れて検討することも大事だと思います。道路構造のディテールについてお話がありましたが、側溝の構造などは、今まで自転車のことを考えて作られていません。また、バス停の事例として、コペンハーゲンでは、バス停と歩道の上に自転車レーンが整備されていますが、日本ではそこまで考慮されていません。このような道路の構造なども含めて、将来的な石川県のみちづくりのあり方についても議論できればいいと思います。

○石川県 土木部 都市計画課参事 為重委員

情報提供ですが、近いうちに道路法が改正され、道路構造令の詳細については、各都道府県で条例化し、道路幅員の考え方等を地域に応じたものにしていくことになると思います。このことも踏まえ、道路空間のあり方を考えていければよいと思います。

○金沢大学 教授 高山会長

能登地域で1.5車線の道路が整備されましたが、全国で初めての事例でした。石川県では、すでに全国に先駆けたローカル・ルールを適用しているので、先進的な基準にしていきたいと思います。そのようなことも含めて、この自転車ネットワーク協議会は、今後も継続していけるように、事務局も手綱を引き締めてがんばっていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

## ■まとめ・閉会

### ●国土交通省金沢河川国道事務所 調査第二課 吉田課長

高山会長、委員の皆様、活発なご議論をいただき、ありがとうございました。事務局としては、継続することが一番大事だと思っております。来年度は、協議会を三回開催する予定ですが、必要に応じて協議会や勉強会を開催するなど、臨機応変に対応をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。また、本日の協議の概要を事務局でとりまとめ、報道関係者に情報提供させていただきますので、ご承知いただきたいと思致します。高山会長より“見える化”についてご指摘いただきましたが、今後このような協議会が開催されていることを広く周知していくことも大事だと思致しますので、協議会の広報なども検討していきたいと思致します。

以上をもちまして、第1回金沢自転車ネットワーク協議会を終了致します。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。

－ 以 上 －